

ひろば

大代

S 61. 9. 10

大代公民館

敬老の日



大代町

町民こそつてあなたの長寿を心からお祝い申し上げます!!

九月十四日敬老の日、大代町では、新しく満七十才とられた十二名の方を併せて、一四五名の方を対象に敬老の日を御祝いすることになりました。

男女別・年令別集計は図の通りです。

祝 結婚60年以上夫妻 { 武田 芳勝 (上飯谷) 武田 タマヨ (下谷)					
最高年令者	男女 舟木近太郎 (91才) 日向ナツヨ (91才) 本郷				
其の他	武分庄次郎 90才 } 夫婦そろって90才おめでとうございませう。 武分マタヨ 90才				
男令別	年令	70代	80代	90代	合計
男		41	17	3	61
女		53	29	2	84
計		94	46	5	145
☆米寿の祝(88才) ※年令は9月15日現在					
☆島斗市(弓久)					
☆喜寿の祝(77才)		松島 定範(上市)			
☆會根シカヨ(本郷)		井谷 武正(上飯谷)			
渡辺ヨシエ(上飯谷)		山本 夏義(植松)			
能谷ヤスカ(川上)		木下 フミヨ(川上)			
原ヨシノ(四日市)		高村 三次郎(八反田)			

幸せに暮らして下さい

大代中二年 渡利 伸 二

九月十五日は敬老の日です。僕の家にも祖父と祖母がいます。しかし僕はいつも敬老の日だからといって、祖父や祖母に感謝の気持ちをあらわしてゐるとは言えません。それは、今まで何もしなかつたから敬老の日にしてあげようと思つても、てれくさくてできないからです。今僕にできる事は、やさしい言葉をかけてあげる事だと思つます。そして、祖父の楽しみにしている年に一度の本願寺まいりが、一年でも長く行けることを僕は願つています。そして、大代のお年寄りの皆さんも楽しみを持ち、幸せに暮して下さい。僕達も敬老の日に限らず、常に感謝の気持ちで忘れられないようにしたいと思つます。

私のおばあさん

大代小六年 竹 間 裕 二

僕の家には、明治生まれの曾祖母がいます。おばあさんの腰は曲がついて、顔

や手には、深いしわやあかざれがいっぱいあります。そんなおばあさんを見てみると、いろいろな経験をしてここまで生きてこられたんだなあと思つます。

おばあさんからこんな話を聞いたことがあります。戦争中に空しゅうの飛行機が空をひっきりなしに飛んでいてとてもこわかつたとか、その時に食料に苦労していたとか、遊び道具は今とちがつて、自分達で作つていたとか、ほかにもいろいろな話を聞きました。多くの約八倍も生きて、いろいろな体験をしてこられたおばあさん。働きすぎて、病気になることもあったけど、体に注意し、ずっと長生きしてまた、いろいろな話を聞かせて下さいね。

美しく健やかに

老いる為に

上飯谷 下 垣 貞 義

高令化社会とよく言われます。今では、平均寿命も八十才になりました。大代町でも七十才以上の老人が百四十五人、実に住民の十七%です。八十才以上が

五十一人で六%です。

長生きは結構なことです。でもそれは健康であつての事で、寝たきりであつたり恍惚の人になつたのでは、本人はもとより周囲の人も気の毒です。

昨年のお年の老人の日だったか教育テレビで或る先生（お名前は聞き洩らしませんが）の「健やかに老いる為の七ヶ条」のお話がありました。大変興味深く聞きました。皆さんは如何でしょう。

一、老いるマネー

やはりお金は絶対必要。

二、健康たるべし

健康は幸せの源泉。

三、老勉すべし

頭の体操、常に勉強しよう。

四、老働すべし

体や年に似合つた仕事を。

五、老精を樂しむべし

セックスを樂しむことも若返りのコツ。

六、若き異性の友を持て

若い人と交際して心は何時も若々しく。

七、おしやれをすべし

みなりも若々しく心身ともに老け

こまないことが健康の秘訣。

※ 本年から私も皆さんの仲間入りよろしく。

9月少年健全育成指標

お年寄りを大切にしよう

御礼（都市交流の会）

公民館長 橋 本 昭 二

町内の皆様の御協力で盛り上がり、無事に幕を閉じました『都市の皆様と大代町民の交流の会』。

連日の酷暑をものともせず、文字通り一所懸命に尽して下さいました皆様に、心から感謝を捧げ厚く御礼を申し上げます。何分とも初めての事業で然も出席される人数が、なかなかつかめなく計画も予算も後追いの状態でした。執行部の皆さんは苦しい思いを押え帰省されそうな方の家庭を訪ねたり、電話や有線などでねばり強く出席の勧誘をして戴き、又婦人会の皆様には当日の御奮闘は言うに及びませんが、事前に数回となく料理の献立や予算・数量その他の打ち合わせと色々御心配を

お掛けしました。

お蔭で蓋を開けました十四日は非常に賑やかで、久しぶりに大代に活力がみなぎった感が致しました。反省会や色々の機会に、皆さんよりお聞き致して居ります本会の問題点を、よく心に刻みまして今後に役立てたいと思つて居ります。

自治会様・青年団様その他関係諸団体の皆様初め大代町全戸の皆様方に、厚く厚く御礼を申し上げますとともに此の事業が益々さかんになり、町民参加の行事として発展して行くことを切望いたします。

都市とふるさとを結ぶ交流会

― 感謝のことば ―

東京石見高山会々長

渡 俊 則

朝夕はめつきり秋らしく虫の声も聞かれる此の頃ですが大代町の皆様方にはお変りなくお過ごししの御事、大慶に存じます。

扱て先般、八月十四日より十六日の盆三日間は、私達都会からの帰省者にとつて忘れ難い三日間でありました。

都市とふる里を結ぶ交流会に、家事を忘れての歓迎の宴を催され、尚昼夜に亘って郷土芸能、田植ばやし、大江神楽、盆踊り、将又大森銀山の探訪、大代町社寺巡りや座談会等々夫々郷里を離れてより、始めて目前にした感激に浸り、目を潤ませたのは私だけではないと存じます。

改めて郷里を認識し、郷里の皆様方のひたむきな郷土愛に敬意を表わずと共に私達も一生懸命応えるべく心を新たに致しました。

来る十月五日(日)には第二回東京石見高山会の総会を開催することに致しております。

昨年は郷里より橋本公民館々長外数名の方々のご参加を得て盛大に催されましたが、今年もより一層盛大にし、郷里の皆様方の歓迎の様子や、私達に寄せられたご期待を伝え、少しでも郷里のために役立つことを模索して、都市と故郷(ふるさと)を結ぶ交流を更に深めたい所存であります。

郷土の皆様方のご健康と郷土の発展を祈り、紙上を借りました御礼の言葉に代えさせていただきます。有難うご

ございました。

温かい

ふるさとの人々



大阪市 後藤 サツキ

「都市とふるさとの交流会」では盛大な催しをしていただき、皆様方の温かいおもてなしに御礼を申し上げます。有志の方々から農村の抱えている種々な問題を聞き、一番驚いたのは農家の跡継ぎに嫁が無い……と言う事でした。今迄は他所事(ヨソコト)としか聞いていませんでした。史実に基づいた郷土の歴史、婦人会の方々の真心こもった故郷の味に舌つづみをうち乍ら見せてもらった郷土芸能の数々、田中さん御兄弟の素晴らしい歌声に感動し、こんな大物声楽家が居られたとは、これ又大きな驚きでした。

索漠としたコンクリートの建物に住んでいますといつも思います、

「大代ではもう田植の季節だろうか」「上阪して一度も螢を見てないナー」「降る様な満天の星空を仰ぎたいナー」

「高山はもう紅葉をはじめたろうか」と。

都市へ帰られた方々も円高、新興工業国の追い上げなど、出口の見えない不況のトンネルの中で、企業の生残りのために懸命の努力をされるでしょう、此れを機に更に皆様との交流をお願いいたします。来年も皆様方のお元氣なお顔が見られます様にお祈りいたします。

都市交流の会が終つて

― 感じたままを ―

上市 横田 正子

故郷を離れ都会で生活されている方々がお盆に帰省され、楽しく過ごしていただくこの会は大変良い事と思えます。連日の暑さの中、皆様方大変ご苦勞様でした。私も16日が当番で昼食のお手伝いをさせていただきました、都会の皆様にも久々の田舎料理をと一生懸命作りました。

私が感じた事は、今年が初めての事で何かと戸惑いのあったのも事実ですが、結果として皆様方も私も家の方にお客があったりして、女の手間がみな会の方へ出る事は大変でしたし、不満の声も聞かれました。又、期間にして

か一日半位でしたら帰省された方も疲
れが少なくすみ、接待する側も会と
家と両方が出来てお互い楽にすごせる
のではないかと思います。

次に各家庭に案内状はありましたが
れど、アトラクシヨンのある事も知
らない人も多くおり、一般参加者も少
なかつた様な気がしました。

でも、都会と田舎の人と人とのふれ
あいは大切な事です。今度の経験を生
かし、次の会はより良くスムーズに行
なわれます様お願い致し、感じたまゝ
を書きました。

赤ちゃん誕生

おめでとうございます

本郷 日向 高弘 ひかりちゃん
日向 一美 光ちゃん

はじめての事業の中から

ふるさとを結ぶ交流会事務局

帰省客の姿に町は久方ぶりで活気を
取りもどした八月のお盆、水道の赤信
号も廻転を始めていました。

自治会、婦人会、青年団外、諸団体

「都市とふるさとを結ぶ交流会」ほん
とくに意義深いものを感じました。

容赫ない炎天のもとで参加者の歓迎
会が催されました。

「小笠原流田植ばやし」中学校の先
生も生徒もお休み返上しての出演、統
いて保存会の一般若手、OB組の合同
共演、帰省客は勿論並みいる人々も我
を忘れて鳴り止まぬ拍手・拍手、異状
なまでのアノ瞬間の感激は一体何であ
ったのでしょうか。

歓送会では帰省客が之に応えられ、
飛入りの唄声も始まり、そして声楽で
は既に国際舞台で活躍中の田中公道さ
ん、ピアノ伴奏の奥様、のど自慢・歌
曲日本一の田中興亜さん、同じく民謡
日本一をかちとられた足立三枝子さん
何れ劣らぬ郷土出身の方々のサーピス
に会場はいやが上にも湧き立ち、満場
惜しみない拍手が送られました。

宴席の關係で町内の皆様方をご招待
出来ず感激を分かち合えなかつた事を
今更乍ら後悔され、反省致します。

「連帯性の強化」とはよく言われる
事、特に過疎地には欠く事の出来ない

と感じた事は有りません。

やり切れない多忙の中を奉仕する事
の難しさ、然し皆が手を取り合つて成
し遂げた快感、立派に歯車が咬み合つ
て出来上つた成果、そこにアノ感激も
あつたのではないのでしょうか。

過疎とは年令のバランスが崩れ去り
良きリーダーを失つて、町の行事も出
来難くなる事ではないのでしょうか。

見る人、やる人、疲れも多忙も忘れ
去つて、「よくやった、御立派、御苦
勞様、又やりましょう、ほんとに有難
う、頑張ろう」など、

今回の事業の中から何か一つ見いだ
せた様な気が致します。

事業に全面的御協力頂きました町内
の皆さん、多忙の中を御奉仕頂きほん
とくに有難うございました。

